

JIP台湾2011

国立屏東商業技術學院

実習生：太田垣良孝、李家誼、頼筱雯

実習場所 台湾南部に位置する屏東北西部にある『国立屏東商業技術学院』

実習期間	2月21日(月)～3月18日(金)の26日間(滞在期間は2月20日から3月18日)	
実習内容	実習：50分×6コマ 授業見学：50分×54コマ サバイバル中国語：50分×4コマ	
実習時間	実習：300分 授業見学：2,700分 中国語：200分	
	個別学習指導：120分×4日=480分 指導教師との実習内容指導時間等：640分	
	合計：4,320分(72時間)	
費用	関空⇄台北 Jetstar(航空券代、空港税、サーチャージ含)	28,473円
	新幹線(高鉄)台北⇄左営駅(高雄)往復	約6,000円
	鉄道(台鉄) 高雄駅⇄屏東駅(片道)	(31台湾ドル)約60円
	生活費(食費、雑費、小旅行等)	約25,000円
	通学費：無料(男子は自転車無料貸し出し)	0円
	宿泊費：女子寮無料(大学内)	
	男子寮(国立永達技術学院 学生宿舍)(4,000台湾ドル)	約12,000円
	合計71,500円程度	(国際交流基金からの給付金は国交が無いため実費)

I 台湾での日本語と実習大学

台湾は「日本」がブームであり、日本発流行ファッションや音楽、キャラクターグッズ、TVゲーム、ドラマ、日本語から中国語訳されたマンガなどに興味を持ち、自分の生活に取り入れる人「哈日族」も多く見られます。日本語も生活に密着しており、日本統治時代(1895～1945)から台湾語や先住民の言葉の中に残る日本語(例：運ちゃん、きもち、おじさん、おばさん)など日本語が日常化しています。

テレビでも3チャンネル(緯来日本台・國興衛視・JET TV)が日本語を放送しています。日常のなかに中国語、台湾語、客家語(中国福建などから台湾に渡って来た一部族の言葉)、英語、日本語が同居しているのが台湾です。

実習大学は台湾の屏東市にある屏東商業技術学院です。応用日本語学科の1学年60名が対象です。1年次の初級授業は台湾出版の『みんなの日本語』4冊です。文型導入と練習A→会話BとC→読解→作文の4分野をチームティーチングで教えていました。東海大学の教え方をお手本にしたそうです。実習は主に1年生担当でしたが、2年生から4年生の実習も見学します。希望を言えば実習も可能です。

II 実習内容

1. 実際にした実習内容

日語会話 (1年生)

クラス (生徒数) : Aクラス (30名) Bクラス (30名)

指導教官 : 劉秋燕先生

1) 一回目

授業時間 : 50分授業を2コマ 1時間目 (8:10~9:00) 2時間目 (9:10~10:00)

50分授業を2コマ 7時間目 (15:20~16:10) 8時間目 (16:20~17:10)

実習日 : 2011年3月8日 (火)

実習箇所 : 『みんなの日本語』第24課 B1, B2, B3

所要時間 : 20分 (B1太田垣、B2李、B3頼) を3人でチームティーチング

使用教材 : B1 (ペープサート、名詞カード30枚) コメントカード

B2とB3 (ワークシート緑色と白色)、コメントカード

注意点 : 「くれます」は「わたし」「自分グループ」の人に限定されます。

反省点 : 教室用語(指示語)があいまいだったので統一して使ったほうがいいです。



(太田垣)



(李)



(頼)

1) 二回目

授業時間 : 50分授業を2コマ 1時間目 (8:10~9:00) 2時間目 (9:10~10:00)

実習日 : 2011年3月14日 (月)

実習箇所 : 『みんなの日本語』第25課

文型1 (たら) 文型2 (ても) 練習A2~4 (太田垣)

練習と例文 (李)

問題3、4、5の解説 (頼)

所要時間 : 各25分を3人でチームティーチング

使用教材 : OHP(絵カード)、ペープサート、コメントカード、
ワークシート (た形・て形の確認用練習プリント)

注意点 : 声の大きさ (一番後ろの席まで届くように)、また指示文は分かりやすく説明することです。

反省点 : 板書計画をたて、最後にどの文型を勉強したか一望できるように計画していたが、時間に追われて書くスペースが狭くなってしまいました。バランスを考えるべきでした。



(太田垣)



(李)



(頼)

2. 学内での講義等

- ・オリエンテーション（実習予定の説明と質問と実習内容リクエスト） 50分×2コマ
- ・「台湾での日本語教育の現状とこれから」 石川清彦 講師
- ・「サバイバル中国語」 劉育俊 助理教授 50分×4コマ
- ・「日本現代文 読解と討論（二）」応用日本語学科4年の授業 50分×4コマ
- ・「高級日語（二）」応用日本語学科3年の授業 50分×2コマ

1. 中国語の授業が日本人実習生向けに開講されていました。発音が中心で最後の送別会に中国語で感想を言わなければならなかったため、4週間で覚えた中国語の練習の場でもありました。日本滞在の長い先生に指導していただき、だんだん中国語もわかるようになってきました。

2. 「日本現代文」 教科書は『日本語上級読解』（大新書局）をつかって、スキミング、スキミングのテクニックを覚え、読解の仕方を勉強する授業でした。5W1Hを即座に見つけ出し、キーワードを見つける練習問題も多数しました。

3. 「高級日語(二)」教科書は『ニューアプローチ中上級』を使って、文型表現の説明を本にしたがって教えていました。受身的な授業でしたが、学生は必死に新しい文型を覚えていました。3年生の授業でしたが、電子辞書を持参していない学生も多かったです。

文型例) それとも、または、あるいは、～つつある、～を通じて、～を通して

III 台湾日本語教育現場の学外見学

- ・ 国立屏東女子高級中学 50分×2コマ分
- ・ 屏東千葉英日語幼稚園 50分×2コマ分
- ・ 空中大学（放送大学） 50分×2コマ分
- ・ 竹田駅池上文庫 50分×2コマ分

1. 国立屏東女子高級中学

一年生担当の劉秋燕先生はこの女子高校へ一週間に一度、日本語の初級を教えに行かれます。1年生の選択授業として日本語の教科が構成されています。1クラス40名

です。事前に劉先生が私たちの授業見学のために計画してグループワーク教材を作られており、学生と実習生 6 名（姫路獨協大学 3 名と麗澤大学 3 名）は教室から校庭へ移動し、「〇〇は好きですか。」「いいえ、〇〇は好きじゃありません」、「〇〇は射手座ですか」「はいそうです」などのゲームにまじり、一緒にグループワークをしました。屏東で優秀な女子高のため、英語も日本語でのコミュニケーションもスムーズに行きました。写真も学生に持ってきてもいいと劉先生が事前指導されていたので、6 名は授業後、スターのように写真を取り合って、ひっぱりだこでした。



2. 屏東千葉英日語幼稚園

5 歳前後の年少者幼児を対象とし、日本語教育と英語教育を同時に行っている学校です。直接法でバイリンガル教育を徹底して少人数制で行っており、語学教学に力を入れており、イメージ方式で行っています。台湾でも類を見ない日本語イメージ方式の幼稚園です。しつけルームという部屋があり、年少者幼児は幼稚園でマナーを叩き込まれます。2 歳から入園でき、なかには日本語能力試験も 3 級を目指す幼児もいます。台湾でも珍しいトリリンガル教育幼稚園です。



(実習生全員)

3. 高雄の空中大学

この空中大学は高雄にあります。高雄は台湾第二の国際都市です。日本の放送大学に相当し、台湾人老若男女が生涯教育、仕事帰りの学習や趣味などの目的で学習しています。日本語のクラスも開講されています。40 分程授業を見学することができました。日本語能力検定 N4 の聴解問題、教科書を使って宿題の自作文を発表したりしていました。50 代のおじさん・おばさんも多く学習しており、私たちは受講生の会話の相手になり、受講生はかなり気さくに話しかけてくれました。外部から教えにきている日本語教師の授業の見学でした。受講生の学習意欲はかなり高く、6 年目の受講だというおばさんもいました。



4. 竹田駅池上文庫

日本人が日本統治時代に建設した木造の駅です。現在も使われていますが、竹田駅の後ろ側に新しいコンクリートの近代的な線路が建設中です。そのため、風情ある風景にぼつんとたたずむ木造竹田駅も、コンクリートの今風の駅へと変わっていくと思うと寂しく感じました。86歳の台湾人おじいさんが実習生一行を出迎えてくれ、当時の話を流暢な日本語で説明してくれました。当時の資料や本を集めたミニ図書館があり、今でも高雄や台中などからも借りにくる方がいらっしゃるようです。実際、見学中おじいさんの話を聞いている最中、遠方から借りにきた数名がいました。また、竹田駅の裏庭は可愛い綺麗なコスモスが咲いており、素朴で懐かしい感じがしました。しかし、ふと上を見るとコンクリートの高架駅建設中です。また、現在は使われていませんが、日本人が使っていた井戸やお風呂や秤なども残されています。



IV 台湾の生活

(1) 学生宿舎

女子寮は学内にあります。第1寮と第2寮に分かれていて無料で宿泊できます。男子寮は学内になく、今年は自転車で10分（徒歩20分）ほどの距離にある永達技術学院学生宿舎（男女共通の建物）に宿泊できました。予算は1ヶ月4,000元（12,000円程）払い、11階（エレベーター付）2人部屋の外国人専用のゲストルームです。トイレもシャワー（お湯も出る）も付いており、かなり快適です。蚊も少ないです。2人部屋ですが、1人で使えました。屏東技術商業学院の男子学生も多数宿泊しています。応用日本語学科1年生2名、2年生1名がここに宿泊していたため、交流が頻繁にありました。女子寮は窓を開けると近所にある養豚場の糞の臭いがあるのでたまらないらしいです。また、蚊も多いです。



(男子寮)



(女子寮)

(2) 学生との交流

かなり頻繁に交流がありました。授業が終わったら、頻繁に「ご飯にいきませんか」と誘われます。特に1年生で『みんなの日本語』第26課まで習っていて、日本語を使いたいらしく、学生の会話の相手になりました。学校でまだ未習の言葉や表現を多々聞かれました。中国語もたくさん教わりました。3月15日から17日までは文化祭(学園祭)がありました。応用日本語学科学生主催の歓迎会・送別会も講堂(活動センター)で行われました。特に実習の準備で大変だということも感じず、土日は台南や高雄へ学生のバイクに乗って連れて行ってもらい、男子実習生は学校から無料レンタルの自転車を借りることができました。屏東駅まで20分自転車で行ったりもしました。バスはわかりにくかったです。



(3) 食事面

学生寮にはキッチンはないので、食事は学内・学外で食べます。学校には食堂があります。ビュフェ方式でおいしかったです。弁当も50台湾ドル(日本円で150円程度)で売られていました。学校の前にはセブンイレブンもあり、ランチ、夕食を食べる食堂もたくさんあります。大学の前の道を渡るとすぐなので、徒歩で行け、便利です。値段も安く、飲み物は1,000ccで25~30元(90円程度)で、砂糖控えめなど甘さ、氷の量も調節できます。食事面でも、一食50元(150円)もあれば十分です。別に節約しなくても、おなかいっぱいになるくらいです。基本的に麺か飯を選択します。もちろんタピオカミルクティーは台湾名物ですが、タピオカは食べ過ぎたためかなり太りました。また、給水機《水もお湯(100度)も出る》もあるため、自分の水筒を持っていけば便利です。カップラーメンも寮で食べられます。

(4) 衛生面

犬は放し飼いが当たり前らしく、学内にも数匹のワンちゃんがありました。かなりおとなしく、吠えられることはないです。蚊も多いため痒みどめの薬を持参したほうがいいです。

また、バイクや車の排気ガスが臭いため、マスクもあったほうがいいです。自転車を借りるなら、マスクをしていないと、車道を自転車も走るため、バイクの排気ガスで喉をやられます。

最近台湾でもトイレットペーパーを便器に流すようになったようですが、屏東は田舎なので、男女とも便器の隣に必ずある便器のゴミ箱に大小使用済みのペーパーを捨てます。流したら詰まります。ペーパーが備え付けられている場合も多いですが、持参したほうが困らないです。大学の売店で安く手に入れることもできます。

(4) 交通面

台湾の学生はバイクでの移動が基本で、子供か年配の方以外はあまり自転車に乗っている人を見なかったです。バイクの数にびっくりします。バイクは2人までと台湾の交通法で決まっているため、バイク1台に何人も乗っている場合は警察に捕まります。しかし、ヘルメットなしや何人も乗っているバイクも多く見られます。バイクでの逆走も多く遭遇したので、自転車《マウンテンバイク》を運転するとき、かなりひやひやしましたが、すぐ慣れます。屏東駅まで学校から行く場合、学校前にあるバス停から駅まで23元(70円以下)で行けます。ボタンを押して止まってもらうため、景色を覚える必要があります。しかし、学校から駅まで一本道なので、心配ないです。男子寮から学校までも一本道なので、迷うことがないです。運良く実習中は天気が良好で、雨は降らなかったため、大丈夫でしたが、傘をさして自転車に乗ると危険なので、カッパ(130元)を買ったほうがいいと思います。

(5) 気候

天気は良好でした。夜一度雨が降りましたが、朝になるとやんでいました。半袖で過ごす学生もいました。薄い長袖や羽織るものがあれば十分です。日本の春先より暖かいです。セーターやダウンジャケットなどは不要です。27度くらいにもなるため、初夏と感じるときもありました。特に日中は暑いです。男子寮・女子寮とも冷暖房が完備されているため、温度調節をすれば、快適に過ごせます。教室にも冷暖房があります。

(6) 観光

高雄: 4週間の実習の中で週末(金曜の午後、土日)は基本的にフリータイムで、観光に行くことができます。台湾鉄道で、屏東駅から高雄駅まで30分で行けるので、5度ほど高雄へ行きました。学生といったのは3度で、2度自分で行きました。高雄は台湾第二の国際都市で、MRT(捷運)も発達しているため、自由にいきたい場所に行けます。瑞豊観光夜市や六合観光夜市(ナイトマーケット)も観光客向けに発達したそうです。おいしい台湾のB級グルメ、雑貨や洋服など、一日いても飽きないほどでした。



台南：スペイン・オランダ統治時代の歴史的建造物が多数残っており、屏東から台南までオートバイの後ろに乗せてもらい、1年生の学生のうちへ2泊しました。移動はすべてオートバイで、夜は恒例の花園観光夜市へ行きました。屋台料理は本当においしかったです。台湾人は気さくで親日家も多いと思いました。



V. 実習を終えた感想

(太田垣良孝)

J I Pでの実習を台湾に決めたのも、台湾でどのような日本語教育が行われているのかに興味があったからです。実習に行く前は不安もありましたが、J I Pを終えていくらか成長したのではないかと感じました。中国語は基礎知識（中国語検定4級）しかなかったので、意思伝達できるのだろうかと不安でいっぱいでしたが、話そうとする中国語を学生は最後まで聞いてくれました。学生は日本語を勉強しているので、日本語母語話者との日本語会話に本当に興味をもって接してくれました。学生にはできるだけ日本語で話しかけました。教材の準備などは事前に日本から持って行っていったので、準備が間に合わないということはありませんでした。実習・見学をするたびに、授業観察シートを書き指導の先生に提出するので、その日のうちに書いたほうが良いと思います。実習は教案の提出が求められました。日本の文化についていろいろ聞かれました、語学の面だけでなく、日本の文化についても勉強が必要だと感じました。今後は日本の文化の勉強が自分の課題だと思いました。台湾は日本統治時代が50年もあったため、年配の方は日本語をまだ覚えていらっしゃる方も多かったです。学内の椰子の木も日本人が植えたとのことでした。統治時代には日本のすばらしい教育を受けたとおっしゃったおばあちゃんにも町で会いました。感動のあまり少し涙が出てきました。日本人が統治したときの日本語教育に感謝して下さったということです。台湾での実習で、日本語教育事情もわかり、今後の日本語教師としての仕事に大きく役立てたいと思います。屏商の学生の皆さん、指導して下さった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

(頼筱雯)

2011年2月21日から3月18日まで、一ヶ月間の日本語教育海外実習は本当に行って良かったと思います。交換留学生として姫路獨協大学に来られたから、今回の実習に行くこ

とができました。本当に感謝しております。台湾人だけど、滅多に屏東に行くことがなかったです。行く前にはこの一ヶ月の実習はどうなるのか、ちょっと緊張しましたが、李さんと太田垣さんのおかげで、緊張しなくなりました。

台湾人ですから、生活的には多分大丈夫そうだけど、最初の一週目は実習の生活に慣れてませんでした。しかし、二週目からだんだん慣れてきました。屏商の先生たちがすごく親切で、いろいろ教えていただきました。そこでチームワークの重要さがよく分かりました。大学での日本語教育は学校によって教え方も違います。私は一人の日本語学習者として、屏商の教え方が素晴らしいと思います。学生たちに毎回の授業の内容を覚えさせて、もっと頭の中に残ってほしいという方法はテストです。ほとんど毎日テストがあります。それは屏商の先生たちが毎日授業が終わってから、一緒に話し合っ、討論した結果です。学生のため、いろいろな手段、工夫をしました。私は本当に感心しました。この一ヶ月間、たくさんの方を見学しました。特に印象に残っている見学は『屏東千葉英日語幼稚園』というところ。小さい頃から、バイリンガル教育を受けて自然に日本語で話している子どもたちを見ました。ゲームをしながら、日本語の勉強も子どもの無意識の中に覚えさせています。本当に驚きました。

あっという間に一ヶ月が楽しく過ぎました。これから日本語教育の先生になるために、今までの経験を生かせるようにもっと頑張らなきゃいけないでしょう。今回の実習もたくさんの方々に指導していただいて、本当に感謝しています。

(李家誼)

自分は今年の修了生なので、もともと卒業する前にもう海外実習（JIP）に参加するチャンスはないと思いました。大曾先生のおかげで、協力を得て、実習に参加することが出来て、本当に感謝しています。今回台湾での実習は自分にとっても、とても貴重な経験だし、本当にいろいろ勉強になりました。将来は台湾で日本語を教える可能性があるのも、今回の実習はただの見学だけではなく、将来教える際にひとつのいい参考になりました。もうひとつ印象に残っていることは、屏東商業技術学院の先生方が学生のために一生懸命、力を尽くしてらっしゃる点にとっても感動しました。自分も日本語学習者なので、自分が日本語を勉強する際のことを思い出しました。自分の経験と先生方の教え方を比較しながら、新たな考えが見つかりました。どう教えれば、学習者にとって一番分かりやすいのかをもう一度考え直して、実際に教えるときにもっと工夫してやりました。実習はもちろんすべて思ったとおりにうまくいったのではなくて、多少、失敗したこともありました。でも、たくさんの方々が励ましてくれて、「私も出来る！」という自信を持ち始めました。この一ヶ月に得たものは本当に言葉だけでは足りません。本当に実習に行けて良かったと思いました。